

# 平成30年度 岐阜県家庭教育支援推進事業（家庭教育支援員）の活動報告書

## ◆市町村名

関市

## ◆配属部署

協働推進部生涯学習課

## ◆家庭教育支援員の役割

現代社会は親子の育ちを支える人間関係の弱まりや、子どもの社会性や自立心などの育ちをめぐる課題など、家庭教育が困難になっている社会だと言えます。関市においては、多くの人的資源があり、様々な組織や団体が家庭教育支援を行っているとはいえ、家庭教育に困難を抱える家庭も少なくありません。

そこで、関市では家庭教育支援チームを設立し、チームのメンバーが①親の育ちを応援する ②家庭のネットワークを広げる ③支援のネットワークを広げることを重点に活動し、地域で草の根的な家庭教育支援が実施されるようにしていきます。

今年度は「家庭教育応援隊」養成講座を開催し、受講生に幼児期・少年期・青年期の子どもへの関わり方等を学んでもらい、家庭教育支援チームメンバーの人材養成を始めます。

## ◆主な活動

### ■「家庭教育応援隊」養成講座開催

第1回（10月20日）なぜ「家庭教育支援チーム」？どう家庭教育支援を進める？

岐阜県環境生活政策課課長補佐 富田かおり

・全国または県内の子育て支援の状況をざっと知ることができ、その中で私がやってきたことは他市町でもやっていて、無駄じゃなかったという一定の自信がもてたことが大変うれしかった。【受講者】

第2回（11月17日）子どものかかわり方を学ぶ～乳幼児の発達と大人のかかわり～

岐阜大学教育学部非常勤講師／揖斐幼稚園副園長 佐木 彩水

・どのお話も納得いくことばかり。子育て、保育士、支援センター勤務を終え、孫育ての今、勇気をもらえるお話だった。今後は様々な経験を生かし、子育てママを応援できるようにしていきたいと思う。【受講者】

第3回（12月15日）親子関係における負の連鎖を断ち切るには～今どきの子どものすがた～

中部学院大学看護リハビリテーション学部教授 山田小夜子

・子どもの行為を褒めるというよりも、子どもの存在そのものを褒めていくことの大切さを痛感した。一人の親として、また支援者として人と関わっていく時に、その人の思いを汲みとり、存在そのものを尊ぶことをこれからも実践していきたいと思った。【受講者】

第4回（1月19日）今、子育てで考えたいこと

岐阜大学特任教授 山田日吉

・子どもたちを取り巻く状況、データ、新聞などからの情報、知らないことが多く、より支援していくべき内容が見えてきた気がする。サポート、レスキュー、自立を促しエンパワーする大切な土台。私も大切にしたい。【受講者】

第5回（2月16日）親子と育む地域の対人関係オーケストラ

児童精神科医／元慶応大学医学部小児科外来医長  
世界乳幼児精神保健学会理事 渡辺久子

・科学的なデータや具体的な事例をもとに、地域ぐるみで親子支援をする必要性を示していただけた。「謙虚で腰が低く、人に惜しみなく与える老婆がいる地域は栄える」という言葉が印象的で、何よりコーディネーターには温かい人柄が不可欠であると痛感した。【受講者】

## ◆成果

○家庭教育を支援する「地域の子育て支援者」となるために、延べ190名が受講し、家庭教育支援に関する学びを深めた。

○これまで市内各地において、異なる分野で家庭教育支援や子育て支援を行ってきた受講者が一堂に会し、それぞれの活動内容を交流することにより、ネットワークが構築され、相互の連携が深まった。受講者が、チームで分担して継続的に支援することの大切さに気付き、自分ができる具体的な家庭教育支援を描いた上で、主体的に他のメンバーとかわる姿が出てきた。

○来年度も引き続き4～5回の講座を受講し、自身の「経験」に加え、家庭教育支援に関する「知識」を十分に身に付けた家庭教育応援隊（家庭教育支援チーム）が立ち上がる。チームのメンバーがそれぞれの得意分野を生かして、互いに連携しながら市内各地で草の根的な家庭教育支援を展開する。

## ◆問い合わせ先

関市協働推進部生涯学習課 0575-23-7777